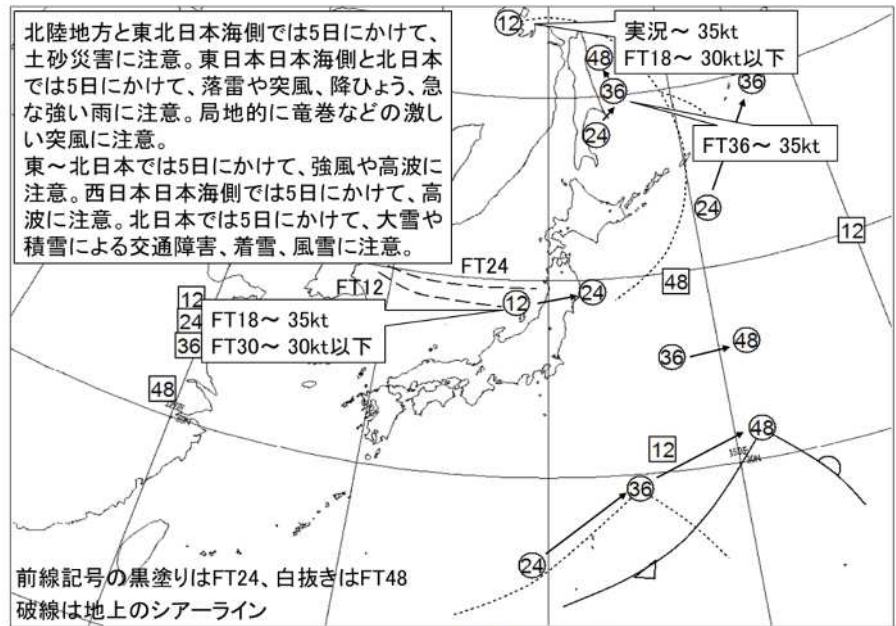


1. 実況上の着目点

- ① アムール川下流域に500hPa 5040m 以下の寒冷渦があってゆっくり東進。この寒冷渦を回る500hPa 5400m 付近のトラフに対応する低気圧がサハリン付近にあって、北上。低気圧から寒冷前線が北～東日本にのびている。前線の周辺ではやや強い雨を解析。
- ② ①の前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなっており、北日本では風が強く吹き、西～北日本の日本海側では波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦は、ゆっくり東進し5日にかけて沿海州付近へに進む。1項①の低気圧からのびる前線は、3日夜には日本の東へ抜ける。北日本と東日本日本海側を中心に5日にかけて寒気移流場となる。北海道地方には、500hPa-36°C以下、850hPa-12°C以下の寒気が流入し、北日本では平地でも降雪となり大雪となる所がある。北日本では5日にかけて、大雪や積雪による交通障害、着雪に注意。一方、東日本日本海側と東北地方の平地では雨となる。これまでの雨で地盤の緩んでいる所があるため、北陸地方と東北日本海側では5日にかけて、土砂災害に注意。なお、少しの雨でも土砂災害の危険度が高くなる地域があることに留意。
- ② 日本海は5日にかけて、地上の気圧の谷となり、4日にかけて地上のシアーラインがのびる。寒冷渦の周りのトラフに対応し、3日夜までに日本海で低気圧が発生し、4日朝には三陸沖に進む。また、別の低気圧が4日朝までにサハリン付近で発生し、オホーツク海を北上する。地上の気圧の谷や低気圧周辺では大気の状態が非常に不安定となる。東日本日本海側と北日本では5日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項①と②の前線や低気圧、地上のシアーラインや気圧の谷の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。東～北日本では5日にかけて、強風や高波に注意。北日本では風雪にも注意。西日本日本海側では5日にかけて、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：北陸4、北海道・東北・近畿・中国3m。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東～北日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。